

## 適応的行動の制御メカニズム

Keywords: 潜在学習, 作業記憶, 注意, 潜在/顕在意識

### ◆ 研究概要等

専門は認知心理学です。認知心理学は、広く人間の知的行動を支える仕組みを明らかにする心理学の一領域ですが、ここで言う「知的」とは一般的な意味合いでの賢さとか要領の良さなどを指すのではなく、私たちが普段の日常生活の中で当たり前に行っている種々の行動のことです。私たちは日常生活において常に状況に応じた適切な行動をとることができますが、それは過去に経験した出来事を知識として取り込み、その知識を適切に利用することができますからです。こうした環境への適応的行動が獲得されていくプロセスがどのようにすれば効率化できるのかということが、研究の根本にある問題意識であり、記憶や学習、注意の働きなどの高次認知機能の側面から研究しています。

### ■ 研究テーマ等

#### 1. 反復経験に伴う文脈的知識の獲得と適応的行動の制御に関する研究

私たちの生活環境は千差万別であり、非常に複雑です。それでも私たちは何の苦勞を自覚することもなく、適応的な行動を取ることができます。一見当たり前のように感じるかもしれませんが、実は、私たち人間は生活環境に内在する規則性や関係性（物の配置や組み合わせ）を知識として獲得し、巧みにその情報を用いることができるからこそ、適切な行動を瞬時に起こすことができるとされています。この規則性や関係性のことを文脈と呼んでおり、適応的行動の基盤として文脈の潜在学習の重要性が指摘されています。潜在学習とは、学習意図を伴わない偶発的な学習のことであり、広くスキルの

心理系専攻  
認知行動研究室  
准教授

えんどう のぶたか

遠藤 信貴

endo@socio.kindai.ac.jp



<http://researchmap.jp/read0137584>

<https://sites.google.com/a/socio.kindai.ac.jp/nendo/>

獲得過程はこの潜在学習によって説明することができます。文脈の潜在学習の諸相を心理実験によって明らかにしつつ、効率的な技能習得のための訓練手法の開発などの応用可能性を模索しています。

#### 2. 潜在/顕在的知識の付与による行動選択の揺れと安定性に関する研究

私たちは日々様々な意思決定・判断を求められますが、その多くは不確定要素を含むものであるため、何がベストであるかの確信を持って判断することはできません。通常は、自分自身の経験や何となくの思い込みに従うか、他者からのアドバイスに頼るかによることとなります。実際、私たちの意思決定判断（行動選択）

は、自分自身の内的状態や周囲の状況によって揺れが生じるものですが、この行動選択の揺れや安定性において、潜在的知識（経験を通じて培われた、言葉で明示的に言い表せないものの、

一定の妥当性をもつ知識）や顕在的知識（外的に明示的に示される知識）がどのような影響を与えるのかについて検討しています。

### ● 論文・作品・表彰・特許等

1. 遠藤信貴 (2016). 変化検出課題における空間レイアウトの文脈学習. 近畿大学総合社会学部紀要, **4**, 1–13.
2. Honma, M., Endo, N., Osada, Y., Kim, Y., & Kuriyama, K. (2012). Disturbances in equilibrium function after major earthquake, *Scientific Reports*, **2**, 749, 1–8.
3. Endo, N., Nagai, M., & Kumada, T. (2009). Objective estimation of state of understanding by near-infrared spectroscopy (NIRS). *Japanese Journal of Psychonomic Science*, **28**, 2–16.
4. 遠藤信貴・武田裕司 (2008). 全体または局所レイアウトの繰り返しにおける文脈手掛かり効果. 心理学研究, **78**, 583–590.
5. Endo, N. & Takeda, Y. (2005). Use of spatial configuration is restricted by relative position in implicit learning. *Psychonomic Bulletin & Review*, **12**, 880–885.
6. Endo, N. & Takeda, Y. (2004). Selective learning of spatial configuration and object identity in visual search. *Perception & Psychophysics*, **66**, 293–302.
7. 2004年3月：博士（学術）（名古屋大学）
8. 2008年9月20日 2007年度日本心理学会優秀論文賞 受賞

### ▲ 趣味等

わたくしは、趣味らしい趣味は持っていませんが、ドライブは好きです。出身が関東なので、まだまだあちこちに車で出かけては楽しんでいます。その他、船舶免許を持っているので、プレジャーボート、マリッジットには興味があります。所有しているわけではないので、なかなか遊ぶ機会はありませんが。

### ◆ ゼミの宣伝等

わたくしのゼミでは、認知心理学およびその周辺領域において、広く人間の「知」に関わる問題をテーマとして研究指導をしております。研究は実験という心理学の基本的方法が主になります。認知心理学にまったく興味がない、実験だけはやりたくない、という気持ちが強い方には合わないかもしれませんが、例えば、臨床志望であっても学部ではしっかりと基礎心理学を身につけたいというモチベーションさえあれば、きっと充実した日々を送ることができると思っています。ゼミの学生と酒を飲みながらあれこれ話をするのが好きですので、不定期にそういう場を設けています。また、夏休み中のゼミ合宿も恒例行事としていきたいと思っています。